

WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2026
vol.36



留学後の人生にも

サントス (ブラジル)

2026年の冬は、日本へ戻ってきてから3年目になります。お正月に、WIN コンコードの事務所の鍋パーティーに誘ってもらいました。早めにWINの事務所に向かいました。同じ年の元留学生と一緒にパーティーの準備を手伝い、具の切り方と鍋の作り方について沢山教えていただきました。準備中に少しずつ元留学生や留学中の学生も来ました。あっという間に事務所がそれぞれの会話で生き生きして、とても賑やかになりました。

僕の記憶に残ったのは、留学生とWIN コンコードのメンバーたちが楽しく話し合っていたこと、鍋が終わったあと、軽い雰囲気が続いて、それぞれのテーブルでゲームなどが始まりました。AIの様々な新機能を試して数学のゲームや百人一首のかかるたを楽しみ、この日も留学生たちにとってかけがえのない経験になったと思います。そう思いながら、自分の留学の時期を振り返りました。

2021年の秋から2022年の夏の終わりまで和歌山大学で日本語日本文化研修留学生、つまり日研生として勉強しました。あのときは初めて日本に来たので、とても不安でありながら一歩ずつ前へ進み続けました。新型コロナウイルスの水際対策中なので、成田空港で着陸し、新幹線に乗ってJRくろしお特急に乗り換え、やっと和歌山市に到着しました。初日の昼は、WIN コンコードの事務局さんと会って、温かい歓迎とともに留學生活が始められる支援をいただきました。

2024年の春から、再び日本に来て、今回は神戸大学の大学院の研究生になりました。関西空港で



飛行機が着陸したあと、神戸空港へのフェリーに乗って、大学の寮に行きました。入寮手続きを終わらせ、空いている部屋に入ったとき、急に心の中に、「そうだ。ここにはWIN コンコードがないんだ」、という思いが浮かびあがりました。はじめて日本に来たときには、宿舎に入った最初から、WINの方々が、暖かい歓迎と必要な物を支援してくれただけでなく、必要なことも教えてくれました。でも、「ここにはWINはないから、全部ひとりではなければならない」と、少し不安になりながら、新生活の準備を始めました。でも、手を動かしているうちに、それは違う、ということに気づきました。布団の準備、買い物の仕方、掃除のやり方など、和歌山で教えてもらったことが、いま生きている。こうすれば便利だとか、ああしてはダメとか、WIN コンコードの方々と会話で教えてもらったことを、一つずつ思い出しました。日本では当たり前の普通の常識ですが、違う国で生まれ育った人にとってそんなに全部当たり前とは言えません。「ここにはWIN コンコードがない」のじゃない。留學期間が終わっても、和歌山のWIN コンコードに教えてもらったことを通して僕がどこへ行ってもそれを持っていきます。「あそこにもWIN コンコードがいてくれるんだ」という気持ちです。

人の心が機械みたいに働いていることに喩えたら、今のハイブリッド車はそのことをよく表している。栄養という第一次的な燃料があっても、第二次的な燃料として、他人との暖かい時間がそうだと思います。鍋パーティーもその燃料になることを信じています。

そして、今回の留学生も、世界のどこへ行っても、そこにこのWIN コンコードを連れていきます。ここで経験した多くの暖かさや得た知識は必ず心を長く動かす燃料になります。



WIN コンコードバス旅行の感想

高 家陽（中国）

10月26日、私は朝8時にグリーンプラネットを出発するバスに乗り込み、WIN コンコード主催の淡路島バスツアーに参加しました。以前から「留学生にも日本各地の魅力を知ってほしい」という思いを耳にしていたのですが、今回その活動を実際に体験できることに胸が高鳴りました。

淡路島は地図上では和歌山から比較的近くに見えますが、海を隔てているため、明石海峡大橋を経由し大きく迂回する必要があります。移動時間は片道およそ二時間と長丁場でしたが、関根さんや他の留学生たちと留学生活や日本文化について語り合ううちに、気付けば淡路島が近づいていました。長い移動でありながら、心はむしろ軽く、旅の始まりにふさわしい和やかな時間となりました。

最初の立ち寄り先は、淡路島のサービスエリアでした。ここでは巨大な観覧車がそびえ立ち、サービスエリアとは思えないスケールに驚かされました。明石海峡大橋の記念碑の前で全員が揃って写真を撮影し、旅行の楽しさと期待が一層膨らんでいきました。

昼食は淡路島公園内のレストランでいただきました。参加者同士、年齢も出身国も異なりますが、互いに自己紹介をしながら和気あいあいと食事を楽しみました。淡路島といえば玉ねぎが名産として広く知られていますが、レストラン一階で試飲できた玉ねぎスープは、甘みと旨みが凝縮され、思わずおかわりしたくなるほどの美味しさでした。短い休憩を終え、次に向かったのは「インگران

ドの丘」です。雨が降っていたため、園内の人影はまばらで、静かな自然をゆっくりと味わうことができました。広大な芝生と色彩豊かな花畑が目の前に広がり、深く呼吸するたびに心の緊張がほぐれていくようでした。私は動物好きの友人、李さんと昆虫館を訪れ、スタッフの方に昆虫の生態について丁寧に説明していただきました。中には実際に触れる機会もあり、最初は恐る恐る手を伸ばしましたが、普段は得られない貴重な体験に大きな感動を覚えました。

集合後、私たちは再びバスに乗り、「巨大たまねぎオブジェ『おっ玉葱』」へ向かいました。想像以上の迫力があり、淡路島の象徴として存在感を放っていました。周辺には玉ねぎをモチーフにした土産物の店があり、玉ねぎキャンディー、金属製の玉ねぎオブジェ、玉ねぎを景品としたクレーンゲームまであり、淡路島の名産がここまで愛されていることに驚きました。展望台の向こうには四国の島々が望め、曇り空でありながら幻想的な海景色が広がっていました。

帰路は途中で観光を挟まず、和歌山大学への直行となりました。長時間の移動で疲れはありましたが、スタッフの皆さんが車内レクリエーションを用意してくださっており、心遣いに温かさを感じました。私はいつの間にか眠ってしまいましたが、心は満たされていました。

今回の淡路島ツアーは、ただの旅行ではなく、留学生一人ひとりが日本をより深く理解するための大切な機会となりました。美しい景色、穏やかな時間、温かい交流のすべてが、私の留学生活に忘れがたい彩りを与えてくれました。企画してくださったWIN コンコードの皆様に、心より感謝申し上げます。



マダガスカルを象徴する木、バオバブ

ケビン（マダガスカル）

マダガスカルと聞くと、多くの人はキツネザルなどの珍しい動物を思い浮かべるかもしれませんが。しかし、この島国を象徴する存在として忘れてはならないのが「バオバブ」の木です。巨大な幹と、まるで根が空に向かって伸びているかのような独特の姿は、一度見ると忘れられない風景をつくり出します。

バオバブは、乾燥した地域で生き抜くための特別な特徴を持っています。太い幹には大量の水を蓄えることができ、雨の少ない季節でも生き続けることができます。乾季になると葉を落とし、枝だけが空に伸びる独特の姿になりますが、雨季になると再び葉や花をつけます。夜に咲く白い花はコウモリや昆虫によって受粉され、その後できる実はビタミンCを多く含み、ジュースや伝統的な食品として利用されています。

世界には8種類のバオバブがありますが、そのうち6種類がマダガスカル固有種であり、この島だけに自然分布しています。特に西部や南部の乾燥地域に多く見られます。

西海岸のモロンダバ近郊にある「バオバブ街道」は、道の両側に巨大なバオバブが並ぶ景色で知られ、夕暮れ時には多くの旅行者が訪れる人気スポットとなっています。

バオバブは観光資源であるだけでなく、地域の人々の生活とも深く結びついています。葉は料理に使われ、実は食用や飲み物に加工され、樹皮の繊維はロープやかご作りに利用されます。また、何百年も生き続ける木であることから、祖先や地域の歴史と結びつけられ、神聖な存在として大切にされることもあります。



現在、バオバブを目当てに多くの観光客が訪れ、ガイドや宿泊施設、土産物店などを通じて地域経済にも貢献しています。一方で、農地拡大や森林破壊などにより、一部の地域ではバオバブの生育環境が脅かされているのも事実です。そのため、自然環境を守りながら地域の生活も支える持続可能な保護が重要になっています。

マダガスカルを訪れる人々にとって、バオバブとの出会いは強く印象に残る体験となります。壮大な景観を形づくるだけでなく、そこに暮らす人々の生活や文化とも結びついたこの木は、まさにマダガスカルの自然を象徴する存在と言えるでしょう。

ベトナムの水上人形劇

ズン（ベトナム）

子どものころ、夏休みになると、母はよく私をハノイの郊外にある祖父母の家へ連れて行ってくれました。祖父母が住んでいる田舎は、とても静かで自然が豊かな場所でした。そこでは多くの人が主に稲作で生活しています。私が田舎へ行くたびに一番楽しみにしていたことは、祖父母に連れられて水上人形劇を見に行くことでした。水上人形劇という名前は、この芸術の舞台が池や湖などの「水の上」から来ています。人形は俳優によって操られ、水の上で動きながら演技をします。

水上人形劇は、ベトナム北部の紅河デルタ地域の農村の生活や文化をよく表していて、非常に特徴的な民間芸術です。10世紀ごろに生まれ、農民たちの遊びや工芸から始まったと言われています。農民たちは娯楽を求めて木を削り、人形を作りました。最初は簡単な形でしたが、だんだん技術が発展し、より精巧で芸術的な人形になりました。そして、水の上でさまざまな面白い人物を演じるようになりました。

私が水上人形劇で一番好きなのは、人形のデザインです。人形は赤、ピンク、黄色、黒などの色で塗られていて、明るく楽しい雰囲気を感じさせます。また、ベトナムの農村の自然や宗教文化も表しています。人形の服装を見ると、その人物の身分や役割がよく分かります。例えば、王様や役人、兵士などの衣装があります。また、農民や労働者のように、簡単な服を着た人形もあります。網を引く人、船をこぐ人、田んぼを耕す人、魚を釣る人、水牛を世話する人など、農村の日常生活を表す人物も登場しま



「お松明」と「ノウルーズ」

メリサ（トルコ）

3月上旬、奈良の東大寺のお祭りである「お松明」を拝観した。このお祭りは「お松明」や「お水取り」として知られ、観音様への参拝とともに、奈良の人々に春の訪れを告げるものとして知られている。夜の中、僧侶が火を灯した松明と一緒に走る姿は、私にトルコやアゼルバイジャンのお祭りである「ノウルーズ」を思い出させた。私はアゼルバイジャンで住んでいた6年、毎年高校で参加したことがあった。

「ノウルーズ」とは、トルコやアゼルバイジャン、そしてイランなどで見られる、春を迎えるためのお祭りだ。ペルシア語で「新しい日」を意味し、太陽が北半球へと移動する3月21日、自然の目覚めと再生を祝う。20日までには家の大掃除をして、21日は、朝にお墓参りをしてから新しい服を着て集まる。大きな焚き火の周りで集まり、食事や踊りを楽しみ、そして何より盛り上がるのが火の上を飛び越える儀式だ。

私の経験を振り返ると、授業の後、先生たちが中庭に枝を集めて火を灯すところから始まる。まだ寒い季節なので、最初は皆で火の周りで手を温める。伝統的な帽子や衣装を持ってくる学生もいて、場は華やかに彩られる。火と同じ色をした帽子の先の黄色い玉が、炎に照らされてピカピカと輝いていた光景は、今でも印象に残っている。食事が終わると、先生たちがテンポがある伝統音楽を流し、学生たちは火の前に一列に並ぶ。歌いながら一人ずつ火の上をジャンプして飛び越えるのだ。時々、服に火がつきそうになることもあるので、念のため水も用意されている。私も髪を少

す。人形は主にイチジクの木「ベトナムの sung」という木で作られます。この木は軽くて水に強いいため、人形が長い時間水の中にあっても壊れにくいからです。

物語の内容は、農民の毎日の生活を描くものが多いです。例えば、田植え、漁、米を搗く（精米）作業、アヒルの世話、レスリング、競馬、ブランコ遊び、木登り、獅子舞、龍の舞などがあります。また、ベトナムの歴史に登場する英雄の物語を表すこともあります。さらに、お寺へ行くこと、神様の行列、お祭りなどの宗教的な活動を表す場面もあります。音楽も水上人形劇の大切な要素です。太鼓、木魚、笛、角笛など、ベトナムの伝統的な楽器が使われます。人形を操る俳優たちは、人形の動きに合わせて歌ったり会話したりします。そのため、舞台はとても生き生きとしていて、観客にとって魅力的なものになります。

現在のベトナムでは、タイビン省、ナムディン省、ハイズオン省、バクニン省、ハイフォン市、ハノイ市、などで水上人形劇のアマチュアグループが活動しています。メンバーは主に村の農民で、お祭りの時などに公演を行います。また、大都市には水上人形劇の劇場があって、毎晩観光客のために公演が行われています。

私にとって、祖父母に連れられて水上人形劇を見に行った思い出は、子どものころのとても大切に美しい記憶です。大人になった今、水上人形劇の魅力は、登場人物の優しさやユーモアだけでなく、見る人にふるさとやルーツを思い出させてくれるところだと感じています。それぞれの作品は、ベトナムの文化や歴史を知るための良い機会でもあります。

ベトナムの水上人形劇は、ベトナムの農民たちの知恵と創造力から生まれた、ユニークな芸術です。現在、この劇はベトナムの国家無形文化遺産に登録されて、多くの人々に人気があります。



し焦がしたことがあるが、それでも皆で笑いながら過ごした時間は最高の思い出だ。

帰宅すれば母が伝統菓子を食べさせたりして、夜になれば再び街の人々と焚き火で集まる。「お松明」で火の粉を散らしながら走る僧侶の姿を見たとき、私は6年前の「ノウルーズ」で、夜の焚き火の周りを踊り、走り、跳ね回った日々を思い出した。

遠く離れた国であっても、同じ時期に同じ意味を込めて行われる祭りがある。場所は違っても人々の喜びや生き方は共通しているのだと改めて気づかされた。トルコやイランに行かずとも、東大寺でそのことを感じるができる。ぜひ一度、この特別な雰囲気を経験してみてください。

有吉佐和子の魅了

メリル（フランス）

2022年に行われた初めてのWINコンコードでの会合において、私は闘牛について研究したいという希望を述べた。しかし、日本語専攻の修士課程1年目には、最終的に有吉佐和子『ふるあめりかに袖はぬらさじ』を題材とし、本作において政治的に神話化されてきた女性・亀遊（きゆう）の人物像を、有吉佐和子がどのように再解釈し、その人間性を描き出しているのかを分析する研究レポートを書くことになった。

現在、修士課程2年目となり、引き続き有吉佐和子の研究を行っている。私の修士論文のテーマは、有吉佐和子の小説『和宮様御留』であり、「女性によって描かれた歴史小説」という観点から考察を行っている。では、私はどのようにして有吉佐和子の作品に魅了されるようになったのだろうか。

私が有吉佐和子を知ったきっかけは、和歌山劇団ZEROに連絡を取ったことであつた。島田氏のご厚意により、有吉佐和子記念館にて行われた茶会に招待され、劇団の方々とお会いする機会を得た。その後、当時名前すら知らなかった有吉佐和子について調べ始めた。大学の授業では、夏目漱石、三島由紀夫、村上春樹といった作家は取り上げられる一方で、現代の女性作家が紹介されることはほとんどなかったからである。調査を進める中で、有吉佐和子の作品が50作以上存在するにもかかわらず、フランス語に翻訳されているものが『紀ノ川』『華岡青洲の妻』『恍惚の人』『香華』の4



作のみであることを知り、大きな衝撃を受けた。

まず『紀ノ川』を読み、作家本人と作品の舞台である和歌山について理解を深めようとした。この作品を読んだ際、女性であり娘でもある私自身として、登場人物と母や祖母との関係を重ねずにはいられず、強く心を打たれた。その後、フランス語で読める作品をすべて読み終え、以前から関心のあつた新劇という観点から、『ふるあめりかに袖はぬらさじ』にも興味を持つようになった。この戯曲において、有吉佐和子が政治的に利用されてきた女性像を人間的に描き直している点に、私は大きな魅力を感じた。また、戯曲という形式を取ることで、新劇のみならず歌舞伎など、異なる表現によって再解釈され続け、新たな亀遊像の伝説が生み出されていく可能性を提示している点も非常に興味深い。

『和宮様御留』においても、有吉佐和子は歴史に対する新たな読みを提示している。和宮の身代わりが存在したという仮説を描くことで、女性の二重性、すなわち外側の女性像（社会的に求められる姿）と内側の女性像（公には抑圧される本来の自己）について考えさせられる。さらに、フキという人物は、和宮の影となることで、やがて自分自身の影となっていくが、それは女性が性別に基づく役割や責任を引き受けたときに直面する運命を象徴しているように思われる。自分らしく生きることは、役割や義務に縛られる中で非常に困難である。

有吉佐和子が歴史小説というジャンルを用い、現代社会における女性の問題を浮き彫りにしつつ、歴史上の女性人物に新たな光を当てている点は、極めて意義深いと感じている。

今後は、有吉佐和子の研究をさらに深化させ、フランスにおいて彼女の作品をより広く紹介していきたいと考えている。同時に、和歌山大学、WINコンコードのボランティアの方々、劇団ZERO、そ

して和歌山で出会い、今なお交流を続けている友人たちとの強い絆を、これからも大切にしていきたい。

和歌山県の自然美

ランガ（インドネシア）

日本に留学する前、和歌山について何も知りませんでした。実際、和歌山県という名前を聞いたのは、私の大学の先生が和歌山大学を学びの目的地として推薦してくれたときが初めてでした。そして、和歌山が関西地方にあることを知ったのは、日本に来てから1週間後のことでした。その時、私の心には不安が広がり、これから1年間、聞いたこともない街で一人暮らしをするという事実に対して、どこか不安で胸がいっぱいでした。

しかし、和歌山に到着し、実際にその地を知り始めると、すべての不安は消え去りました。和歌山は、私が予想していた以上に美しい場所でした。壮大な山々、豊かな自然、そして穏やかな空気が私を包み込み、心を落ち着かせてくれました。大学周辺の景色ですらこれほど素晴らしいのですから、和歌山の他の地域にはどれほどの美しさが広がっているのだろうと、私の心はさらに高鳴りました。

私の探訪が始まり、和歌山の隅々に隠された自然の美しさと文化を発見していきました。中でも有名な場所の一つが熊野古道です。熊野古道に沿った神社や、その周りに広がる壮大な滝の景色は、言葉では表現しきれないほど美しく、目を見張るものでした。また、熊野古道に隠された歴史や、そこに生きた人々の信仰心を感じることで、和歌山の深い文化への理解が深まりました。

それだけではありません。和歌山には、さらに感動的な場所がたくさんあります。白良浜のビーチは、私にとっても特別な場所となりました。白い砂浜と透き通った青い海が広がり、ここでは自然の力強さと美しさを実感することができました。

また、和歌山の別の魅力は、その文化と歴史にもあります。例えば、和歌山城はその美しい景観とともに、何百年もの歴史を感じさせてくれる場所です。ここでは日本の城の美しさを体感することができ、かつての武士たちの暮らしや戦いの歴史に思いを馳せることができました。

私が和歌山で経験した中で特に心に残ったのは、橋杭岩の訪問でした。自然の力で長い年月をかけ

て形成された岩の数々が、まるで壮大なアートのように立ち並んでいます。この場所で私は、自分がどれほど小さな存在であるかを感じ、また自然の偉大さに圧倒されました。こうした美しい場所は、和歌山にしかない特別なものだと実感しました。そしてこれらの素晴らしい経験はWIN コンコードのおかげで得ることができました。

日本に到着した翌日、WIN コンコードは歓迎会で私たちを温かく迎えてくれました。彼らのおかげで、私は和歌山の美しさを知り、日本の本場の料理を味わい、日本の文化を直接体験し、日本にいる間にとっても貴重な経験をすることができました。また、八朔狩りや、心に残る大根の収穫も体験させてくれました。

和歌山での時間は、私にとって貴重なものであり、日々の忙しさの中で、自然と触れ合うことで心をリフレッシュできました。和歌山は、その美しい自然に加えて、地元の人々はとても親切で、観光地を訪れるときには、いつも温かい笑顔と共に迎えてくれました。これらの出会いが、和歌山の魅力をさらに深く感じさせてくれました。

また、和歌山での生活は、私にとって自分を見つめ直す時間でもありました。都会の喧騒を離れて、自然の中で静かな時間を過ごすことができたことで、心の余裕を持つことができ新たな発見と共に、人生における大切な価値観を学びました。

留学生活の中で、和歌山は私にとってただの学びの場ではなく、心を癒し、成長させてくれる場所となりました。これからも、和歌山で学んだことを胸に、さらに多くの場所を訪れ、もっと深く日本の文化を学び続けていきたいと思えます。

和歌山での思い出は、私の人生においてかけがえのない宝物です。



新留学生紹介(2026年)

レスト (インドネシア)

皆さん、こんにちは。私の名前はレスト・アムリゴ・テラウムバヌアです。2003年11月5日にインドネシアの北スマトラ州で生まれました。州はとても広く、私は本土から遠く離れた小さな島で育ちました。子どものころは首都ジャカルタへ行っただけでもなく、海外へ行くことなど想像もできませんでした。

しかし、勉強したいという強い気持ちと両親の支えのおかげで、大学入学試験に合格し、ジャワ島の大学へ進学しました。高校生のころ、日本文化に興味を持ちました。最初はアニメがきっかけでしたが、歴史を学ぶ中で日本の社会や文化に強く惹かれるようになりました。特に、日本の秩序や人々のマナーに感動し、いつか日本で学びたいと夢見るようになりました。

その思いから日本語教育学科に進み、努力を続けました。2024年に指導教員の紹介で大阪の国際交流基金が実施する日本語パートナーズのプログラムに挑戦しました。不安もありましたが合格し、約一か月半日本で活動する機会を得ました。日本での生活は、夢が現実になった瞬間でした。多くの国の学生と出会い、多様性の大切さを学びました。

帰国後、再び日本で学びたいと決意し、努力を重ねました。そして2025-2026年度のMEXT奨学金に合格し、和歌山大学で学ぶ機会をいただきました。

この経験を大切に、将来は教育を通して日本とインドネシアの架け橋になりたいと考えています。最後までお読みいただき、ありがとうございました。夢は遠くても、努力を続ければ必ず近づくと信じています。

ティン (ブルネイ)

皆さん、こんにちは！ ニュウシティと申します。ティンと呼んでください。ブルネイ出身です。

2025年4月に日本に来て、もうすぐ1年になります。日本に来る前に、日本語の基礎を独学で勉強していました。来日後、最初の6か月間は大阪日本語教育センターで日本語を学びました。現在は和歌山大学で博士課程の研究をしています。

12年前の2014年に、ジェネシス (JENESYS) プログラムに参加し、初めて日本を訪れました。その時、日本の文化や歴史、テクノロジーについて多くのことを学びました。それをきっかけに、日本への興味がさらに強くなりました。

大学卒業後は研究に関わる仕事がしたいと思い、博士号を取得したいと考えました。2年前からさまざまな国の奨学金に応募しましたが、なかなか合格することができませんでした。最後に、文部科学省 (MEXT) の奨学金を知り、日本大使館を通して応募しました。これが最後のチャンスだと思い、試験と面接に一生懸命取り組みました。

その結果、奨学金に合格することができました。本当に嬉しかったです。このような貴重な機会をくださった日本政府に心から感謝しています。私の夢を実現する第一歩になりました。



日本に住んでいる中で、たくさんの困難に直面しました。特に言語の壁に悩まされることが多く、悔しくて泣きたくなることもあります。ただ、楽しい経験もたくさんあり、優しい方々にも出会うことができました。

和歌山に住んでまだ半年ほどですが、これからあと3年間生活する予定です。和歌山市は、今では私にとって日本の「家」のような存在です。これからも充実した時間を過ごしていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

廖彦綸 (台湾)

皆さん、こんにちは！台湾の桃園(トウエン)から来ました、廖彦綸(リョウ・イエンルン)と申します。皆さんからは「リョウ」と呼んでいただければ嬉しいです。

私は現在、台湾の義守大学で新メディア設計学系(ニューメディア・デザイン)を専攻しており、アニメーション制作やコンピューターデザインを学んでいます。日本のアニメーションには小学生の頃から親しんでいます。特に中高生の頃は、勉強の合間にたくさんの作品を見て元気をもらっていました。中でも京都アニメーションの『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』は、最も印象に残っている大好きな作品です。アニメの話をするのが大好きなので、ぜひ気軽に話しかけてください！

日本にはこれまで観光で6、7回ほど訪れたことがあり、その度に日本の文化や美味しい食べ物に魅了されてきました。中学生の頃から日本語の勉強を始め、J-POPを聴くことも大好きです。

私の将来の目標は多岐にわたります。現在は、幼い頃からの夢であるパイロット、そして日本のアニメーターを目指して日々努力しています。また、人に教えることに大きな達成感を感じるため、将来の選択肢の一つとして日本語教師の道も考えています。

趣味はとても幅広く、音楽、ゲーム、アニメ、そしてスポーツや写真撮影が大好きです。音楽に関しては、これまでバイオリン、ピアノ、リコーダー、ギターなど様々な楽器に挑戦してきました。残念ながら「広く浅く」で精通はしていませんが、音楽を楽しむ心は誰にも負けません！スポーツも球技から水泳、ランニングまで何でも好きです。また、バイクに乗ることも大好きで、いつか日本で大型バイクを買い、日本一周をすることが私の「バケットリスト(夢のリスト)」の一つです。

性格はとても明るく外向的で、細かいことは気にしないオープンなタイプです。困っている人がいた

ら力になりたいと思っているので、何かあれば気軽に声をかけてください！食べ物は特に焼肉が大好きですが、好き嫌いはないので、世界中の美味しいものを食べ歩きたいと思っています。

この留学期間中には、日本語(N1合格)と英語(TOEIC)の両方の語学力を磨き、将来の夢に一步近づきたいと考えています。また、勉強以外でも、ずっと憧れていた花火大会に行ったり、お祭りの屋台を楽しんだり、日本の学生らしい日常を全力で体験したいです。そして、大好きなカメラでたくさんの素晴らしい景色と心温まる思い出を記録したいと思っています。

日本への留学は、私にとって長年の大きな夢でした。今、こうして日本にいることにとってもワクワクしています。日本語で至らない点もあるかと思いますが、精一杯頑張りますので、ぜひ仲良くしてください！どうぞよろしく願いいたします。

ジャホンギル (ウズベキスタン)

私はジャホンギルと申します。ウズベキスタン・ナマンガン出身の24歳の学生で、シルクロード国際観光文化遺産大学の卒業生です。現在は和歌山大学で学んでいます。

日本への興味は、学生時代に映画『るろうに剣心』を観たことがきっかけでした。その後、シリーズ全作品を観賞し、ONE OK ROCKの楽曲を聴き、次第に日本の映画にも触れるようになりました。SNSで日本に関する情報を読むうちに、少しずつ夢が形が作られていきました——いつか日本で生活し、学びたいという思いです。

大学3年生になるまで、日本は遠い夢に過ぎませんでした。そんな時、語学勉強会を主宰する日本人教師と出会いました。彼女のクラスに参加していたある日、突然こう尋ねられたのです。「日本へ留学してみない？」

その一言が私の人生を変えました。

私はリスクを冒し、自らに挑戦することを決め、必死に勉強し、ついに日本へ渡る資格を手に入れました。田舎の小さな村から、夢見ていた国へ到着した感覚は非現実的だった——まるで死んで異世界へ生まれ変わったかのような感じでした。

2023年、私の大学は和歌山大学と交換留学協定を結び、私はシルクロード国際大学から初の交換留学生として同大学に留学することになりました。二度と巡ってこないかもしれないこの機会を、私は全身全霊で掴み取りました。

来日前は、日本語が得意ではないものの準備は整っていると思っていました。しかし初日、アパ

ートを見つけるだけで苦勞しました。その時初めて悟った——ここは日本語が命の国なのだと。

今回再来日し、専門だけでなく、日本語の勉強に一生懸命取り組んでいこうと思います。

パラス (インド)

こんにちは！インドから来たパラスと申します。コロナの時期、家で過ごす時間が増えたことがきっかけに、たくさんアニメを見るようになりました。それで、日本語と日本の音楽、食べ物などのような文化の魅力に強く惹かれていて、深く知りたいと思いました。そのため、大学で日本語・日本文化を専攻することにしました。

日本に行く機会があったらほとんどの方が東京、大阪などのような大都市を選ぶのが普通ですが、どうして私は和歌山を選んだのかということが気になった人が多かった。生まれ育ちはインドの大都市のムンバイだったので、都市の利便性などに慣れていましたが、都市から離れたかった。それで和歌山は私のこの条件にぴったりでした。

先程述べたように、音楽は日本の文化の一つの興味深いところで、和歌山大学の「Uncle Jam ジャズ研究会」というサークルでギタリストとして活躍しています。ジャズに興味を持ったきっかけは「ブルージャイント」というアニメでした。このアニメを通じて、ジャズのようなオタクっぽい音楽の楽しさや魅力がわかって、サークル活動で今、バンドを組んだり、演奏したりすることを体験しました。サークルでただ音楽だけではなくて、日本の飲み会などの文化に触れる機会ももらって、様々な日常的なことも習って、友達もできました。

余 思峰 (中国)

皆さん、こんにちは。

中国広東省から参りました余思峰です。余と呼んでもいただいても、日本名の峰川吉と呼んでもいただいても、どちらでも構いません。今年19歳で、現在大学二年生です。私の趣味は筋トレと料理、そして、平日はジムで体を鍛えて、丈夫な体を保つようにしています。また、自炊することも好きで、時間があれば家で色々な料理を作ってみます。

私が日本と縁を結んだのは、小学五、六年生の頃のことです。当時、テレビで「NARUTO」というアニメを見て、幼い私はすぐに魅了されました。カッコいい忍者になって、仲間と共に冒険する姿にあこがれて、よく空想していました。それをきっかけにアニメが大好きになり、「デスノート」、「君の名は」、「ONE PIECE」など、これまで100作以上のアニメ



を見てきました。今はあまり時間がなくて見られなくなりましたが、アニメを通して日本の文化に強い興味を持つようになりました。

昭和時代のシティポップの音楽は、落ち着いた雰囲気が好きでよく聴いています。アニメが描く夢のような世界、そして日本の美しい景色や伝統文化も、私を深く引き付けてやみません。こうした魅力があるので、私は高校生の時から日本語を勉強し始め、大学では日本語専攻を選びました。いつか必ず日本に来て、自分の目で実際の生活や文化を見てみたいとずっと願っていました。

そして今、願いが叶って、1年間の交換留学生として和歌山に来ることができました。まだ日本での生活に少し緊張していますが、この1年間でたくさん学ぶ、日本の文化を肌で感じて、視野を広げたいです。また、皆さんとたくさん交流して、友達をたくさん作りたと思っています。勉強も生活も、一生懸命頑張ります。

短い間ですが、この1年間、どうぞよろしく願っています。

タオ (ベトナム)

皆さん、こんにちは。私はドー・フォン・タオと申します。ベトナム出身で、和歌山大学教育学部の新生です。2005年6月16日生まれで、母からは「その日はとても暑い日だった」と聞いています。自分では、穏やかで内向的ですが、人に対して親しみやすい性格だと思っています。

現在、ベトナムではハノイ大学日本学部の3年生として在学しており、主に日本貿易について勉強しています。日本語は、漢字やベトナム語とは異なる文構造のため、最初はとても難しく感じていました。しかし、学習を続けるうちに日本の文化について知る機会が増え、それをきっかけに、日本語への興味が深まり、学習意欲もより一層高まりました。

現在の短期的な目標は、JLPTに合格し、さらにいくつかの資格を取得することです。

私の趣味は、人と交流することや、さまざまな場所を旅行することです。新しいことや刺激的な体験をするのが好きで、特に音楽を聴くことは、私にとって大きなストレス解消になります。音楽を聴きながら読書をすることも多く、何時間でも飽きずに楽しめます。また、最近では日本文学にも興味を持つようになり、特に太宰治や東野圭吾の小説に強く惹かれています。これまでにベトナム語に翻訳された作品を読んできましたが、今後は日本語の原文でも読んで、より深く、よりリアルに作品を味わいたいと考えています。

これから、皆さんと交流できることをとても楽しみにしております。どうぞよろしくお願いたします。

フック (ベトナム)

こんにちは。ベトナムから来ましたマイ ホンフックと申します。ベトナムのホーチミン市師範大学で日本語翻訳・通訳を専攻しています。

日本に留学した理由は、日本語と日本文化を深く学び、日本社会への理解を深めたいと考えたからです。子どもの頃から日本に興味があり、アニメや音楽、文化などに触れる中で、次第に日本への関心が強くなりました。また、これまでの交流活動を通して異文化理解の重要性を実感し、より実践的に学べる環境で自分を成長させたいと思うようになりました。

趣味として、週末にはお菓子作りや編み物を楽しんでいます。お菓子作りでは、新しいレシピに挑戦することが好きで、作ったものを友人や家族にプレゼントすることが多く、喜んでもらえることに幸せを感じます。また、編み物ではマフラーや小物などを作り、手作りならではの温かさに魅力を感じています。

将来的には、日系企業や日越文化交流に関わる分野で働きたいと考えています。そして、日本とベトナムの架け橋となり、両国の人々をつなぐ仕事がしたいです。そのために、日本での留学を通して、日本語能力だけでなく、日本の文化や考え方についても深く学びたいと思っています。また、さまざまな人と交流することで、自分の視野を広げることが目標です。

まだ分からないことも多いですが、一生懸命頑張ります。

どうぞよろしくお願いたします。

2025年度 活動経過

3月29日	新入生歓迎お花見 (加太運動広場)
5月04日	日帰り旅行 有田川町清水
5月11日	和歌祭り渡御行列支援
5月24日	WIN コンコードニュースレター第35号発行
5月25日	第17回 NPO 法人 WIN コンコード総会 留学生スピーチ 「ウズベキスタン」
7月05日	京丹後周辺研修 丹後縮緬博物館
7月12日	会員宅訪問
7月26日	花火大会 浴衣着付け教室
8月02日	ぶんだら踊り支援 浴衣体験
8月08日	会員宅訪問
8月20日	白浜観光
9月04日	高野山研修
9月07日	日研生送別会
9月09日	白浜観光
9月22日	奈良観光
9月27日	後期新入生歓迎会
10月18日	日本舞踊鑑賞「名月に舞う」
10月26日	淡路島観光「イングランドの丘」
11月22日	日本舞踊体験
12月20日	「第23回学長杯留学生によるスピーチ コンテスト」奨励賞贈呈
12月21日	鍋パーティー
12月27日	八朔狩りと食事会
1月02日	初詣 新年会 「紀州天満宮」「玉津島神社」
2月15日	第18回民族芸能祭
3月01日	落語鑑賞 「桂米團治」
3月10日	世界遺産那智の滝 研修
3月14日	卒業生を祝う会
3月20日	白浜観光「三段壁」「千畳敷」
3月24日	食事会 マレーシア
3月28日	熊野本宮大社 世界遺産センター
3月29日	湯浅町 - 町並み保存地区 白崎海岸
3月30日	世界遺産高野山 丹生都比売神社

年間

- ・日本社会や文化等の学びを支援
- ・「にほんごカフェ」の開催
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与 自転車 (点検 修理) 炊飯器
- ・就職活動支援
- ・卒業生との交流・来訪
マレーシア、ミャンマー、インド、トルコ、
中国、韓国、ブラジル、スリランカなど

遠い国から和歌山へ

WIN コンコードと出会って

マリヤ (ウクライナ)

日本に来ることは、私にとって人生で初めての海外生活だった。母国ウクライナから遠く離れた和歌山に到着したとき、期待と同時に大きな不安も感じていた。新しい国、新しい文化、そして全く違う生活環境。すべてが新鮮である一方で、うまくやっていけるのだろうかと心配する気持ちもあった。

そんなとき、大学の国際交流課から WIN コンコードという、留学生をサポートする団体があると教えていただいた。興味を持って参加してみたところ、メンバーの皆さんが一人一人の学生にとっても温かく接してくださり、その優しさに大変驚いたのを覚えている。学生が安心して過ごせるようにいつも気にかけてくださり、困ったときにはすぐに助けてくれる、とても心強い存在である。

これまでに、WIN コンコードで行われた「にほんごカフェ」に参加した。日本語カフェは、いわばスピーキングクラブのような交流の場で、学生だけでなくさまざまな年齢の日本人の方々とも会話を楽しむことができる。日常生活の話から文化の違いまで、話題はとても多様で、毎回新しい発見がある。最初は日本語で話すことに少し緊張していたが、皆さんが優しく聞いてくださるおかげで、今では会話を楽しめるようになった。

また、日本語カフェでは、日本の生活についてのアドバイスをいただくことも多く、とても勉強になっている。例えば、和歌山のおすすめの場所を教えていただいたり、日本の季節ごとの行事について話を聞いたりすることもある。こうした会話を通して、教科書だけでは分からない日本の日常や文化を少しずつ理解できるようになったと感じている。

また、淡路島への旅行もとても印象に残っている。美しい自然の景色を楽しみながら、淡路島が玉ねぎで有名であることなど、興味深い話をたくさん聞くことができた。美味しい食べ物や素敵なお土産もあり、何より多くの方々と一緒に交流できたことがとても嬉しかった。

さらに、和歌山城ホールで日本の伝統舞踊を鑑賞したことも忘れられない思い出である。舞台の美しさや繊細な動き、音楽との調和など、日本文化の奥深さを改めて感じる事ができた。

WIN コンコードには、本当に温かく思いやりのある方々が集まっている。その中で、大学の先生であ



る長友先生に日本語カフェでお会いしたときはとても驚いた。先生は私たちにとって尊敬する存在でありながら、交流の場では気さくに話しかけてくださり、一緒に笑い合うこともできる。そんな距離の近さも、この活動の魅力の一つだと思う。

日本での生活を始める前、私は日本社会の中で友達を作ることや、コミュニケーションを取ることが難しいのではないかと心配していた。しかし、WIN コンコードの皆さんのおかげで、その不安はすぐに消えていった。ここでは、まるで日本の「お母さん」のように温かく見守ってくれる方々に出会うことができたからである。

この活動を通して、日本語で話す自信も少しずつつき、日本文化への理解も深まった。教科書だけでは知ることのできない日本の魅力を、実際に体験しながら学べることは本当に貴重だと感じている。

和歌山での留学生生活をより特別なものにしてくれた WIN コンコードの皆さんに、心から感謝している。これからのイベントにも参加できることを、今からとても楽しみにしている。

和歌山で出会ったこのご縁は、私にとってとても大切な宝物である。異なる国や世代の人々と出会い、同じ時間を共有できたことは、留学生活の中でも特に忘れられない経験になった。これからもこのつながりを大切にしながら、和歌山での毎日を大切に過ごしていきたいと思う。

充実した留学生活

林 羽喆 (中国)

2025年4月、私は和歌山大学に留学するために日本に来た。初めて日本の地に足を踏み入れたとき、私はまさにこれから始まる新しい経験に胸を躍らせていた。この留学生活は、私にとって日本の文化や社会を深く知る貴重なチャンスとなり、何よりも

日本での生活がどれほど豊かで温かいものであるかを実感することができた。

留学中、最も印象に残ったのは、和歌山大学の授業を受ける中で学んだことと、日本の学生との交流だ。日本の授業は、非常にインタラクティブで、私にとっては新しい学びの方法だ。日本の学生たちは、自分の意見を積極的に発言し、議論を深めることを大切にしている。その姿勢から、私も多くのことを学んできた。特に、日本の課外活動については、私にとって新しい発見だ。中国ではなかなか経験できない、実践的な活動に積極的に参加する機会を得たことは、私にとって非常に貴重だ。

その中で、最も心に残ったのは、WIN コンコードというボランティア団体との出会いだ。初めて日本に来た日、私たちは和歌山市内で迷子になり、宿舎を見つけることができず、困り果てていた。その時、WINの事務局長さんが車を出して私たちを迎えに来てくれ、無事に宿舎に到着することができた。最初の不安な一日が、このような温かいサポートによって救われ、深い感謝の気持ちが湧き上がった。

その後、WIN コンコードの皆さん方が私たちを日本のさまざまな活動に参加させてくれた。特に印象深かったのは、日本の伝統的な温泉体験だ。初めて日本の温泉に入ったとき、そのお湯の温かさと心地よさに心からリラックスすることができた。また、餅つきの体験では、日本の伝統的な文化に触れながら、参加者同士で協力して作業する楽しさを感じることもできた。これらの経験を通して、日本の文化への理解が深まり、また、WINの皆さんとの絆も深まったように思う。

さらに、私たちを日本の各地の美味しい食べ物を食べに連れて行ってくれた。その中でトンカツのお店は、学校の食堂で食べるトンカツとは全く異なり、肉はジューシーで外はカリカリ、内側は柔らかくてとても美味しく、感動しました。日本の料理は、見た目だけでなく、素材の良さや味のバランスが非常に重要であることを実感した。

また、ある朝、急にお腹が痛くなり、最初はそれほど気にしなかったが、次第に痛みがひどくなり、ついには救急車を呼ぶことになった。救急車が到着するまで、わずか5分ほどの時間で、その間に対応してくれた救急隊員の方々は、私が外国人だということを気にかけて、翻訳機を使って私とコミュニケーションをとろうとしてくれた優しさに、心から感動した。

病院で診察を受けると、尿道結石だと判明した。



その後、CTを撮った際、担当医師が私を励ましながらか「頑張れ！」と中国語で声をかけてくれた。このような温かい配慮が、異国の地で体調を崩した私にとって、非常に心強いものだ。更に、運ばれた病院での窮地にあった私に、先生はすぐに駆けつけて、医療費を立て替えてくださった。その後、私を食事に誘ってくださり、その間に、さまざまな話をした。その中で、私が今でも忘れられない言葉があります。それは「日本人はすべて悪い人ではないよ」という言葉である。この言葉を聞いた時、私は思わず涙がこぼれそうになり、日本の文化や人々への偏見を打ち破った瞬間だ。

中谷先生の優しさや温かさは、言葉では言い尽くせないほどの恩情だ。私が何度お礼を言っても、感謝の気持ちを十分に表現しきれていないと感じている。日本で過ごした時間は、私の人生において非常に大切な思い出となり、これからも心に残り続けることだろう。

これらの経験を通じて、私は日本の文化や人々との交流で学べたことを大切にしていきたいと強く感じている。WIN コンコードの皆さんに感謝の気持ちを伝えるとともに、今後もこの経験を活かして、さらなる成長を遂げていきたいと思う。日本での思い出は、私にとって一生の宝物だ。

後記

今年も色々な国からの留学生を我々は温かくお迎えしました。彼らは、WIN コンコードの行事やホームパーティーには勿論のこと、多方面にわたる交流により大きく成長されたことでしょう。

そして、帰国後はこれらの留学生生活を良き思い出とし、自国のために更なるご活躍を期待いたします。





WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われ
ます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>